

文化財（美術工芸品）を支える 伝統技術 と用具・原材料

一書画の修理を中心に一

令和3年12月20日

文化庁企画調査会報告

一般社団法人 国宝修理装潢師連盟

理事長 山本記子



I 技術 (I) 装潢(そうこう) 修理技術とは

装潢修理技術の基礎

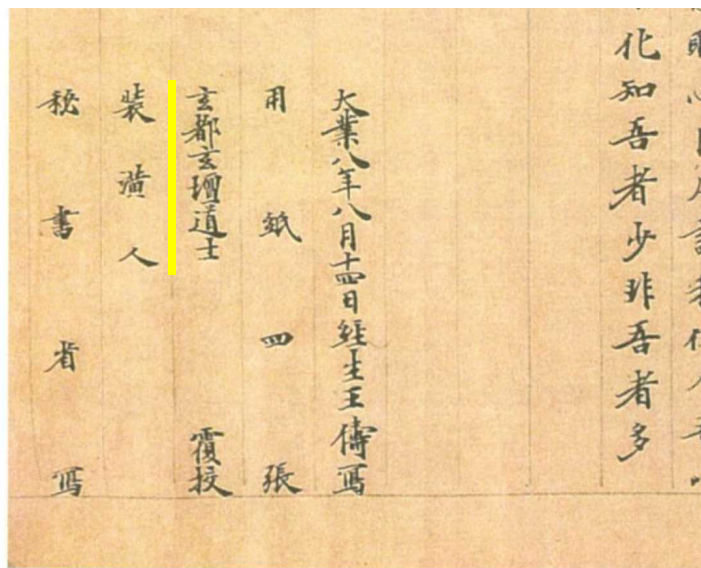
- ・紙や絹に、絵具や膠で表現された絵画や書跡・典籍類を、紙による裏打ちや木の下地による補強により装丁する装潢技術を基本とした修理技術。
- ・「紙を裁ち、紙を貼る」という古代からの技術を継承、「経師」（卷子装、折本装）、「表褙師」（掛幅装）らを経て「表具師」に。

江戸時代には表具の雅称として「装潢」が用いられる

⇒時代とともに技術は発展



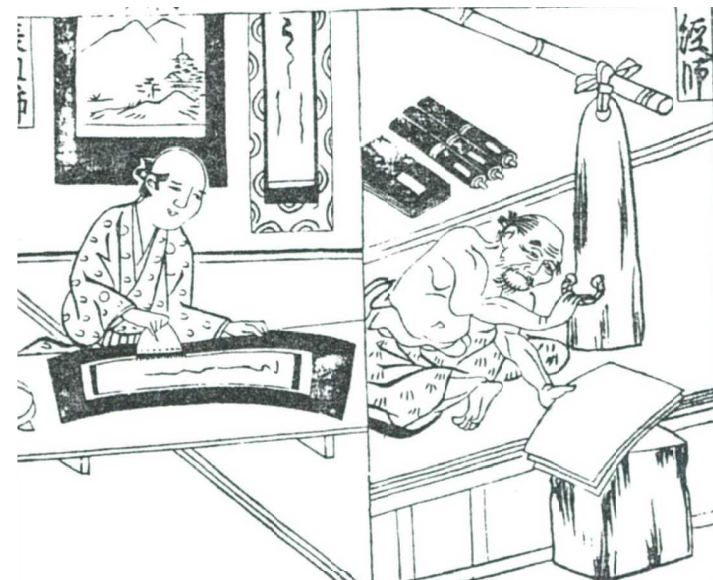
裏打ちのない江戸時代の絵画
非常に不安定で、取り扱い困難。
(京都文化博物館蔵)



「装潢人」老子变化経 奥書部分
大業8年(612)随時代
(大英博物館蔵)



「へうほうゑ師(表補絵師)」
三十二番職人歌合 室町時代
(奈良・天理大学附属図書館蔵)



「表具師」「経師」
人倫訓蒙図彙 江戸時代

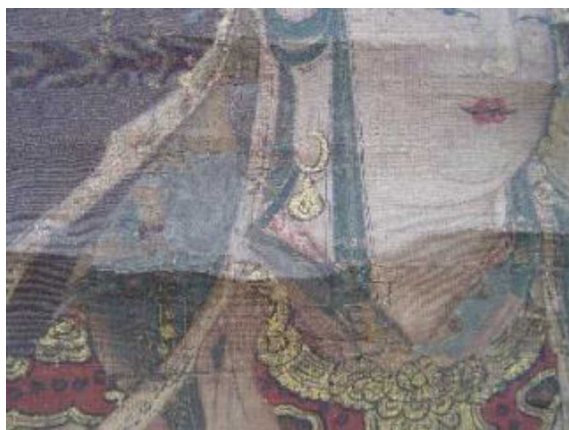
技術 (2) 絵画の形状、損傷、修理材料 掛幅装の例 絹に膠を接着剤とした絵具で表現し、層状の裏打紙にて支え、木軸にて巻き取る

脆弱な文化財 ～美術工芸品（絵画・書跡）の主たる品質・形状、材料、損傷の事例～

・絵画 絹や紙に、膠を接着剤とした絵具などで表現し、紙の裏打ち（掛幅装、卷子装など）や木の下地（屏風装、襖など）で補強



【損傷】絵絹の剥離、剥落、絵具の剥離、剥落

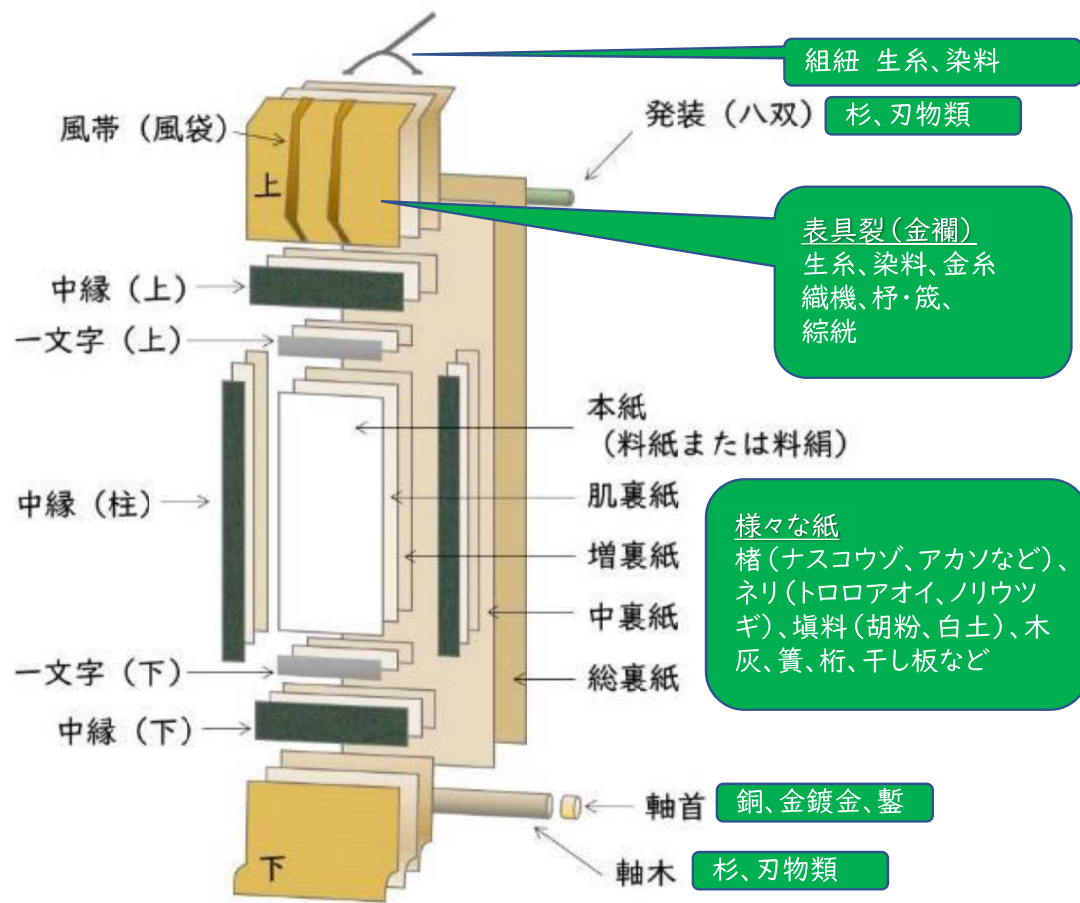


【損傷】画面の折れ、折れ山の絵具、絵絹の剥離、剥落

定期的な修理を経て、今日に伝来



掛幅装の例 国宝・絹本著色千手観音像（東京国立博物館）平安時代



極めて多くの原材料が必要

I 技術 (2) 絵画の形状、損傷、修理材料 襖貼付の例 紙に膠を接着剤とした絵具で表現し、木の下地の上に下張りの紙を貼り重ねて下地とする

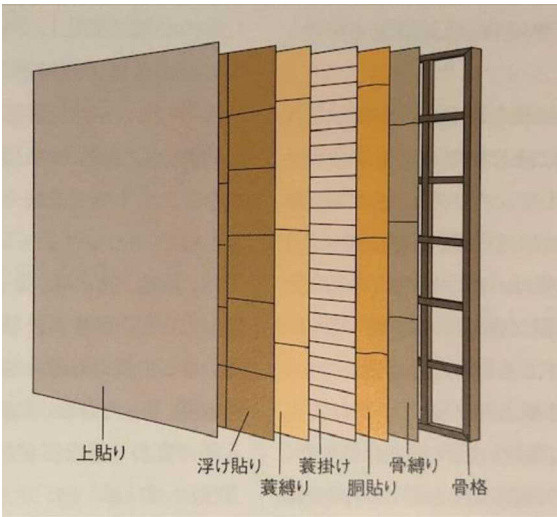


【損傷】料紙の亀裂、引手金具の欠失



【損傷】絵具の剥離、剥落

定期的な修理を経て、今日に伝来



襖貼付の下張りの構造

下張の紙
楮(ナスコウゾ、アカソなど)、ネリ(トロロアオイ)、填料(タルク)、木灰、簀、桁、干し板など



引手金具

引手金具: 銅、金鍍金、鑿

組子下地と框
: 杉、鋸、匏、漆

極めて多くの原材料が必要4

襖貼付の例 重文・二条城二の丸御殿障壁画と新調した組子下地(京都市) 江戸時代

技術 (3) 絵画修理の伝統と革新

修理技術 伝統技術を継承、発展させる(常に発展途上) 伝統技術が中核にあるが、江戸時代の技術の総体を墨守するのではない
科学の知見のもとに、安全性が確認されたものものを適宜導入 代替品の導入は容易でなく、**伝統的な原材料・用具確保は生命線**



修理前



修理後
裏打紙、表具裂、中軸、軸首、
組紐、保存箱など新調

日本が育んだ伝統的な技術の例



表具の裏打ち作業(上)
1層目に美濃紙(岐阜)、2・3層目に美栖紙(奈良)、
最も裏側に宇陀紙(奈良)を用いる。美栖紙、宇陀紙
は、古糊を接着剤とし、打刷毛を用いて圧着させる
表具の仕立てに用いる打刷毛と古糊(下)
打刷毛: 棕櫚の葉を用いた大型の刷毛。
古糊: 大寒の時期に炊いた小麦で10年寝かせた糊。
低分子化し、接着力が低下する。

近年の新たな技術の例



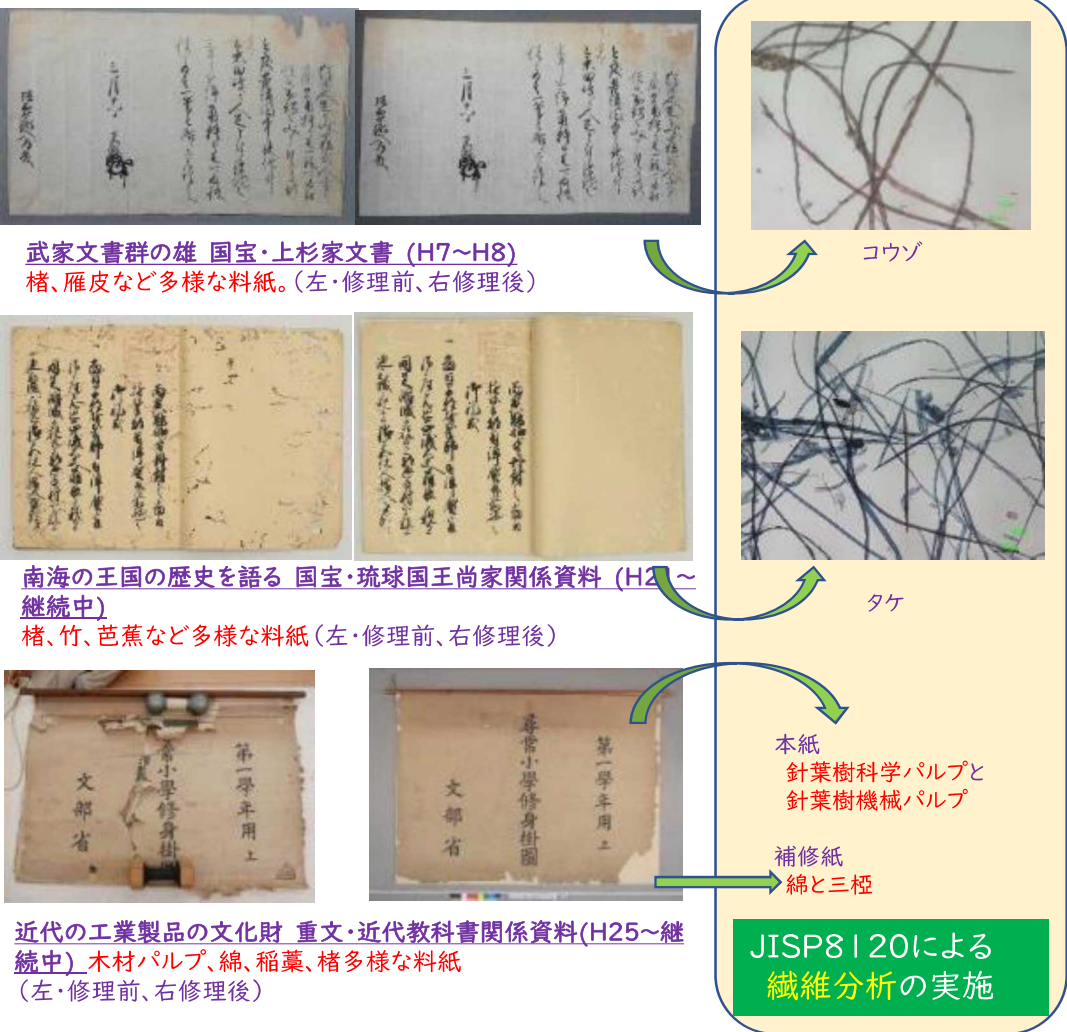
「乾式肌上法」
裏面にある絵具を保護するために、開発された
技法。布海苔とレーヨン紙で表面を固定し、少量
の水で旧肌裏紙を少しずつ取り除く。



「電子線劣化絹を用いた補絹」
絵絹欠失部には、重なりを生じさせないように、絵
絹と似た太さ、密度の絹を補う。新しい絹は電子
線を照射して、強度を低下させたものを用いる。

技術 (4) 古文書修理の伝統と革新

修理技術 伝統技術を継承、発展させる(常に発展途上) 伝統技術が中核にあるが、江戸時代の技術の総体を墨守するのではない
科学の知見のもとに、安全性が確認されたものものを適宜導入 代替品の導入は容易でなく、伝統的な原材料・用具確保は生命線



伝統的な修理技術 一般的に用いられる技術



「手繕い法」
左) 補修紙の紙漉き、中) 欠損部に補修紙を貼り付ける、右) 糊しろを削る

近年の新たな修理技術 虫損の多い江戸時代の記録類などに適する技術



「漉嵌法」
左) 本紙の穴の補填に用いる楮繊維の叩解、中) 漉嵌機に補填用の楮繊維を投入する、右) 紙漉きの要領で、本紙欠損部に楮繊維を流し込む



楮 雁皮 三桧 竹 様々な太さの簀

「古文書修理に必要な用具・原材料」

紙の原料(楮・雁皮・三桧・竹・その他)、ネリ(トロロアオイ・ノリウツギ)
紙漉用具(簀・桁・干し板など)、修理用具(糊・刃物・刷毛など)

2 技術継承の必要条件 (1) 用具・原材料の確保

用具・原材料

人材(後継者)

調査・研究

施設・設備

社会の理解

官民一体の取組

装潢修理の用具・原材料の特質 高品質・多品種・少量

紙



美晒紙

表具の裏打ちに使用。奈良県吉野産。現在生産者は1軒のみで、若い後継者を育成中
原料の楮も入手が不安視される

他に

美濃紙(肌裏紙、岐阜)
字陀紙(総裏紙、奈良)
胴張間似合紙(下張紙、高知)
石州紙(下張紙、島根)
細川紙(下張紙、埼玉)
補修紙(補修紙、高知)

木工品



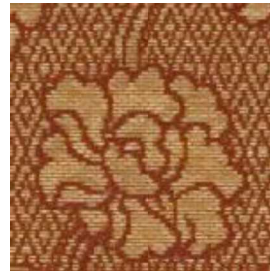
保存桐箱 太巻

良質の桐材、とくに国産材(主たる産地は福島)の入手が困難な状況

他に

杉(下地骨、奈良・秋田)
唐木(黒檀、紫檀等、外国)

染織品



表具裂・織紐

金襴・緞子・綾・羅など複雑な構成をもつ織物の製作者が少数になっている。絹糸、金銀糸、染料などの原料、綜紉、箆など道具の製作者も少数に。主たる産地、京都。

他に

組紐(装丁、全国各地)
真田紐(保存箱、東京)
天然染料(藍、紫など)

接着剤



布海苔

良質の天然の布海苔の採取者が減少。(主たる産地は長崎など)

他に

小麦澱粉糊(京都)
膠(各地)

用具



各種刷毛

とくに動物毛(鹿、馬、狸)を多く輸入品に頼っており、入手不安定。また、把手の檜の加工工場も探すことが難しくなった。製作地千葉

他に

紙漉用具(簀・桁)(高知など)
竹物差し、盤板(作業台)
天然青砥(京都)など



刃物類

注文に応じた刃物製作職人、鋸などの目立て職人が減少し、入手困難に。

現在の状況 選定保存技術「装潢修理材料・用具製作」(保存団体・一般社団法人伝統技術伝承者協会)の活動はあるものの(第2回 松田聖氏報告参照)

① 製作技術継承(後継者不在)の危機

需要減少により生産者が激減、高齢化進展

② 原材料調達等の困難

生産者が原材料や道具の入手に苦勞

③ 需要の低減

流通量が極めて少なく少数の生産者に依存

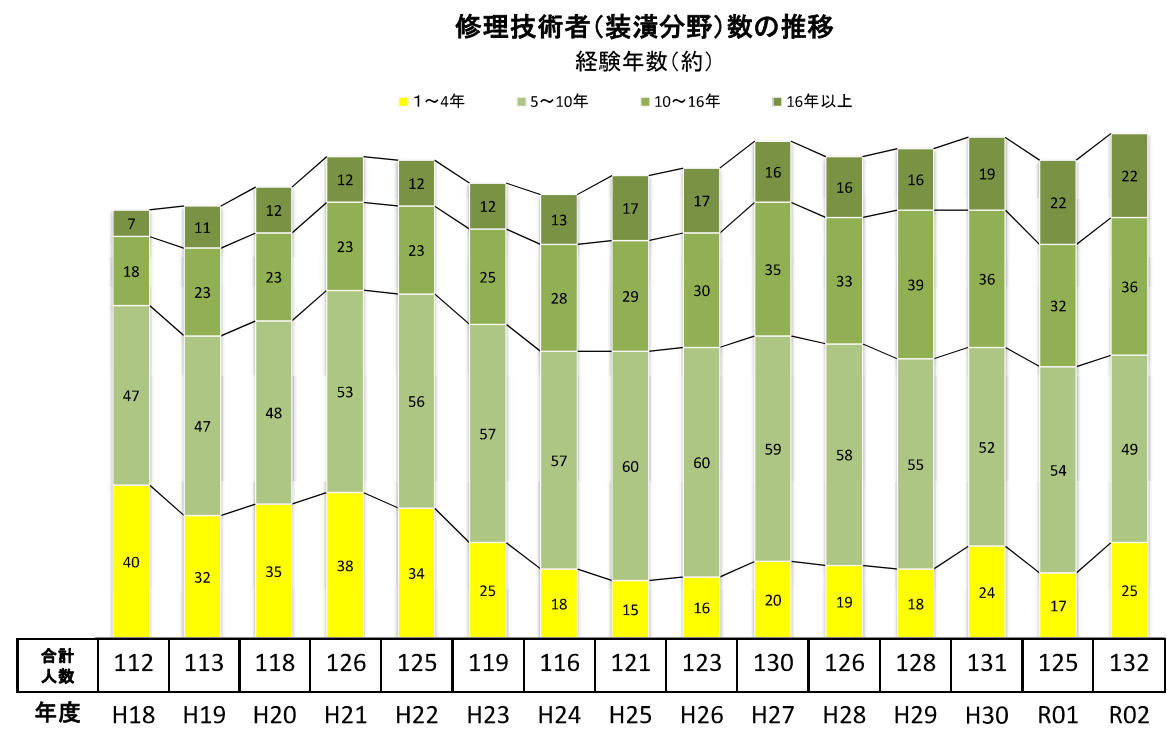
⇒ 修理技術と用具・材料は一体のもの、長い年月をかけて洗練されてきた、どれひとつ欠けても、高度な修理実施に支障が生じる

2 技術継承の必要条件 (2) 人材(後継者)の確保

- 用具・原材料
- 人材(後継者)
- 調査・研究
- 施設・設備
- 社会の理解
- 官民一体の取組

＝一般社団法人国宝修理装演師連盟＝
昭和34年(1959)設立、平成7年(1995)選定保存技術保存団体
加盟工房10工房(所在地:東京2, 静岡1、滋賀1、京都4、奈良1、福岡1)

選定保存技術保存団体 (社)国宝修理装演師連盟



※経験年数は年数の若い順に装演師連盟資格制度における技師補・技師・主任技師・技師長の人数であり、必ずしも実際の就業年数とは一致しない

- 後継者育成への取り組み(優秀な人材の確保)
 - ー職人から修理技術者へー
 - ・研修システムの導入
 - ・資格制度の創設(技師長、主任技師試験の実施)
 - ・所得の安定化

- 技術者数の推移(左表)
⇒修理技術数はこの10年ほぼ横ばい
(若手技術者の比率の減少)
 - ・就職希望者は多い
 - ・定着率 6～7割程度

- 修理実施量の確保
 - ・技術は仕事を通じてのみ錬磨できる
 - ・国庫補助事業比率が増加する傾向にある
(H19 36% ⇒R2 54%)*
 - ・修理を必要とする文化財は多数所在
⇒国庫補助事業の更なる拡大が求められる
- ⇒技術者の確保、用具・原材料の確保に必須

*国宝修理装演師連盟所属5工房の事業量